

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	質問事項	ご回答
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分が住みたいホーム、自分の家族を住ませたいホーム」の理念を研修にて確認している。また定期的な会議の中でもご利用者様の意向を確認して実践につなげられるようにしている。	理念は利用者家族、職員との共有を図るために玄関に掲示をしています。理念である「自分の住みたいホーム、自分の家族を住ませたいホーム」の実践として、食べたいときに食べ、起きたいときに起きるなど、出来る限り利用者の意向に沿った対応に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩にて近隣のコンビニに出かけ、店員の方と顔見知りになっています。	近隣に住む以前施設に勤めたスタッフや地域の元民生委員とのつながりを保ち、その人たちと散歩で挨拶をするなどして、日常的に交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域ケア会議に出席させていただき、事業所での支援の様子などをお話する機会を持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については顔を合わせたの開催は見送っている。書面での開催にてご意見を頂戴しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ対策に関して高齢者福祉課、包括支援課等とご連絡、やり取りを行う機会となっています。令和4年度は指定更新もあり、相談をする機会となりました。	管理者が市の高齢者福祉課や包括支援課とコロナ感染防止対策などの情報について、主にメールを使い、連絡を取り合っています。特に本年度は指定更新のタイミングであり、担当者との相談で連携を保っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・事故・ひやり検討委員会を3か月ごとに開催しています。同様な事故が繰り返し起こらないようスタッフのケアについて声を掛け合い改善に努めています。	玄関は夜間の防犯対策のために施錠をしています。また、外部侵入者を防ぐ安全対策として、容易に侵入可能な窓には内側から施錠し、防犯対策を施しています。身体拘束については職員間の声かけや、年2回の研修で全職員の理解を促し、防止に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の身体拘束・虐待についての研修をしております。事故防止の観点に偏れば身体拘束になってしまうことも考慮して、支援内容について検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	質問事項	ご回答
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様の中で成年後見人制度を利用している方がおり、身近に感じ制度について学ぶことが出来ていると感じております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様だけでなく可能であればご利用者様にもご同席頂き契約内容、生活の見通しなどをご説明させて頂いております。実際に利用が始まってからも相談、質問をして頂ける関係づくりに努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様にご要望、ご不満がないかについて日常的に確認させて頂いています。マスク着用のもと短時間ではありますがご面会頂く対応を行いその際にもご意見を頂いています。	コロナ感染防止対策のため、面会時間を荒天時は玄関先、悪天候時は玄関内で15分として行い、その機会に家族からの意見・要望を聞いています。ただし、看取り期の利用者家族には居室内での面談のため、所内への立ち入りを許可していません。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている事業所の全体会議に必要に応じて代表者、本社の職員が参加することで、直接意見を聞く機会となっています。	本年度の運営推進会議は2か月ごとに金杉台団地自治会、防災部、民生委員、船橋市包括支援課、利用者家族代表などメンバーに報告書を配布しました。報告書には家族代表からのコメントとして「みかんの樹新聞」の記載内容や写真を見ての感謝などが載せられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や普段顔を合わせたタイミングにて職員の勤務状況について声をかけ、働き方への希望の確認を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	普段の業務や会議において、困っていることや改善についての意見などを確認し、面談を通じて個人として解決できるようにするとともに、研修を行って事業所全体としても改善に向けて話し合いを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面での相互交流はしづらい環境となっている。これまで運営推進会議で交流していた事業所様とは文書でのやり取りをしている。また、グループホーム連絡会からの情報共有などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	質問事項	ご回答
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が心地よく住みやすい場所となるようにお話を伺っています。本年は弊社別事業所からの移動があり、別事業所のスタッフの記録を確認するなどして理解を深めて対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様がどのようにお過ごしになっているのか写真入りのお便り、お電話等にてやり取りをさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自立支援を原則とし、ご本人様が行えることを見極めてスタッフ間で情報を共有しています。 高齢となり膝や口腔内に痛みを訴えられる事もありますが、ご本人様ご家族様の意見を踏まえ医療と連携しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に炊事、洗濯などを一緒に行っています。また、実際には行うのが難しくなった場合でも近くでお話をしながら行っています。 毎朝の新聞をお読みになっているご利用者様に今日の天気を持って洗濯物を外に干すか決めたり、掲示している日付を交換してもらったりするなどしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様がお困りになっているであろうことを共有させて頂き、ご家族様が思われる意見を頂戴するとともに解決策について力をお借りしております。旅行に行かれていた頃を思い出されるご利用者様がおられ、ご家族様にその当時の写真をお持ちいただけたら喜ばれるのではとご相談しております		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の団地にお住まいであった方が入居されており、使用されていたコンビニなど団地の商店街のお店などに行けるよう支援させて頂いています。	馴染みの場所との関係維持として、近隣から入居した利用者に以前からのコンビニやお店での買い物をする支援をしています。また、利用者と車で初詣に出かける際には利用者の生家近くで、よく行っていた神社の周辺を走り、馴染みの場所を案内するなどの工夫をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が出来ることを一緒に行えるようにご支援させて頂いております。関係性からか「〇〇さんがいるなら起きて皆のここに行こうかな」と活動が増えているご様子が見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	質問事項	ご回答
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去される以外にご利用者様のご退居は本年度もありませんが、メール等でのやり取りにてご様子を伺っておりました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念である「私が住みたいホーム」は、ご利用様本位であり、昔の思い出話などを伺った時には申し送りにて共有しています。困難な場合には快、不快に感じることを表情やご様子の変化感じ取るようにしています。	意思疎通の困難な利用者の担当スタッフは固定していませんが、全職員がその利用者について話し合い、希望や意向の把握に努めています。また、全ての利用者の状況や思いなどは申し送りに記載し、職員間で引き継ぐと共に全体会議で全職員が把握し、共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居の際にご本人様やご家族様に伺うのはもちろん、ケアマネにも確認して生活のご状況を確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方にとって心地よい過ごし方はどのようなものか考え、職員本位にならないように留意しています。入院から帰られたご利用者様が居室が2階で階段を登れずには2週間ほど上がれませんでした。その後食事と日々の運動により2階に上られるようになり、「あー良かった」と喜ばれる姿が見られました。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーのみならず介護スタッフにアセスメント、ご本人様の意向の確認をお願いして、それぞれの視点で意見を出してもらるようにしています。	介護計画はケアマネージャーを始め介護スタッフが本人の状況と意向を確認し、個別会議、全体会議などで利用者の状況を集約して作成・見直しを行います。介護計画見直しは短期目標の3か月ごとか、変化の少ない利用者に関しては長期目標として半年ごとに行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケース記録にて各自出勤時に確認するようにしております。申し送り時に話し合いをしてケアの工夫を実施し、実施結果を申し送る等しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自社デイサービスにてスーパーの移動販売車を呼ぶ取り組みをしており、コロナ禍で外出、買い物の機会が少なくなっているご利用者様のご要望に応えられるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	質問事項	ご回答
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントの機会は無くなってしまっていますが、散歩で公園やコンビニなどへ行っ て季節を感じたり気晴らしをしたりしていま す。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にこれまでの掛かりつけを継続する か、協力医療機関の利用をするかについて メリットデメリットをご説明しております。	利用者は内科月2回 歯科週1回の訪問診療 を受けています。外部へかかりつけとなっ ている利用者はいませんが、外部受診して精査 する場合などは家族と協力して支援していま す。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて 相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受け られるように支援している	週に1回看護師に来ていただき、ご利用者様 の変化などについて共有し支援してもらって おります。訪問診療時の看護師とも相談、ア ドバイスを頂いて適切なケアが行える様にし ております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを 行っている。	本年度は2回の入退院がありました。入院先 の相談員等と連絡を取るとともに退院に際す る説明に同席させて頂き退院がスムーズに 行えるように情報共有をしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で できることを十分に説明しながら方針を共有し、地 域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事が減っているといったご利用者様に あった変化についてはご家族様に報告をさ せて頂き、必要に応じて医師から説明をし て頂ける機会をもてるようにしております。 入居時には重度化や終末期での事業所で 行えることなどご説明しております。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を家 族に説明し、同意書を得ています。重度化や 終末期が近づいた時には、医師、家族などで 今後の見込みや家族の希望、方針を話し合 い、家族の意向に沿うように看取り介護をし ています。年1回看取り研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	事業所内の研修にて緊急対応を学び、分か らないことをそのままにしないようフォローし ています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利 用者が避難できる方法を全職員が身につけると ともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行う避難訓練にて火災、地震など から身を守る訓練をしています。入職時には 避難経路、消防設備の説明を行っておりま す。	年2回(1回は夜間想定)避難訓練を行い、4 年度は自主訓練を行いました。利用者は一時 避難(庭やバルコニー)までの誘導という形で 参加しました。近隣在住のスタッフを通して地 域に協力を呼びかけています。	職員だけの誘導は限界があり、日ご ろより自治会や地域の人々や他の事 業所の協力が得られるように取り組ま れることを望みます。

自己	外部	項目	外部評価	
			質問事項	ご回答
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念・プライバシー等の研修を通し、尊厳を持ったお声かけを意識しております。 職員同士の業務連絡で個人名やケア内容が聞こえてしまいご利用者様のプライバシー侵害とならないよう配慮しております。	職員は理念・プライバシー等の研修を通し、共有しています。利用者的人格を尊重し、本人の誇りやプライドを損ねない、さりげない言葉かけや対応を心掛けています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事内容や飲み物といった事から、今何が良いか今日は何にしようか、ということをお伺いするようにしております。難しい方でも温かい物冷たい物といったようお答え頂きやすい聞き方をしています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気によっては外に出たい、眠たいといったご本人様のご要望にお応え出来るようにしています。食事についても一律に皆一緒ではなく、食の好みにお応えできるようようにしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容について、お忘れになっている時にはそっとお声がけしたり、ご本人様が着たい衣服を選べるようにご提案しています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考え、調理し盛り付け、後片付けまでご利用者様と共に一緒に行っています。 また、不定期に行っているおやつ作りも楽しみしてくださっているご様子です。	利用者は食事の準備や片付けなど職員と一緒に 行っています。献立や行事食、誕生日などに利用者の希望も取り入れています。普段のおやつは一緒にホットケーキを焼いたり、白玉粉を捏ねて団子を作ったりしています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックは常に行い、水分量が少ない方にはお好みに合わせ水分を提供してまいります。 栄養が偏らないような配慮も感がありますが、食事量が少なくなっている方にはまずは召し上がっていただけようにお好きなもの召し上がってもらえたものを共有し工夫しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアが行えるようにお声がけを行っております。 歯磨きを嫌がられる方にミント系の歯磨き粉が嫌だったと気づきマイルドな歯磨き粉を使うようになった事例があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	質問事項	ご回答
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを理解し、トイレでの排泄を行えるようにお声がけ等しています。昨年圧迫骨折にてリハビリパンツ、オムツを使用するようになったご利用者様について日中は布パンツ+パットとなりました。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を行えるように声かけをしています。圧迫骨折でリハビリパンツ、オムツの利用者が日中のトイレへの声かけや付き添いで布パンツとパッドになりました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の排泄パターンを理解し、トイレでの排泄を行えるようにお声がけ等しています。また、仮に失敗してしまったとしてもご自身で更衣し汚れた物を洗濯にお出し頂けるようにもお声がけ工夫しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の間隔によってお声がけするようにしておりますが、ご希望や好みのタイミングをお話やご様子から把握して個別に支援しています。	入浴は利用者の希望やタイミングに合わせて個別に対応しています。機能が低下した人にはシャワー浴や二人介助などを、入浴を嫌がる人には別のタイミングや別のスタッフ、別の日などの声かけで適切な対応を図っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になりたい、疲れているといったご様子に合わせて日中でも休んで頂けるようにお声がけしております。眠りに影響する日中の活動、夕方に入浴すると夜間ゆっくり眠れるといったその方の習慣や好みにも配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝昼夕就寝前の薬の配薬をファイルに貼付しておこなっていますが、そこに処方されているお薬の名前、効果を記載するとともに副作用として留意する点も記載しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒習慣がある方が、継続出来るようにご支援している。また、何か自分が役に立ちたいと思ってくださっているお気持ち、タイミングを大切に家事を一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のコンビニでの買い物希望に沿って行っている。また、お正月には元々お住まいになられていた辺りの神社をコースに取り入れドライブにて初詣の雰囲気を感じて頂いた。	散歩は近くの公園やコンビニへ行っています。外気浴に出た際の利用者の状態や気持ちの反応をみて、散歩に出かけるか、そのまま庭でお茶をするか決めていきます。正月に初詣ドライブをして季節を感じ楽しむ支援をしました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	質問事項	ご回答
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行かれた際にはご自身でお支払いをして頂けるようにご支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご来訪予定のお電話を頂いた際などはご本人様にもかわってお話をして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内やリビングから目に入る庭に花を植え心地よい空間になるようにしております。また、季節ごとの行事にあわせた飾りつけもおこなっております。 室温について椅子に座っておられるご利用者様と動いている職員では感じ方が違うことに留意して温度計を設置しています。	利用者が多くの時間を過ごすリビングは、季節の飾りつけや利用者の写真が飾られ、居心地よく過ごせるように工夫されています。温度計を設置して、室温を調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所が固定であることで過ごしやすくなる方、近くに気の合った方がいて欲しい方などその方のご様子に合わせて工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にご入居の際には出来るだけ使用されていた物をお持ちいただくようお願いしております。配置についても職員が決めるのではなくご本人様ご家族様と相談し、実際に住まれた後ご様子をお伝えして工夫しています。	入居時に使い慣れた家具や写真、馴染みの物を持ち込み、本人と家族が相談して配置し、居心地よく過ごせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	動線には物を置かないようにし、段差・トイレには目印や表示をつけて気付いてもらいやすいように工夫しております。		